

Ⅱ. 各ブロックの研修実施状況

実践研修の実施状況を共有する資料として、各ブロックの研修の概要をまとめた「実施報告書」、研修運営を通じた問題点と改善策をまとめた「運営改善報告」、受講生のアンケートを集計した「アンケート結果」を作成した。

なお、「実施報告書」は、受講生サイトに掲載した。

1. 北海道ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(北海道ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年9月1日(火)～9月3日(木)
研修会場 函館コミュニティプラザGスクエア イベントスペースB(北海道函館市)
現地実習 城岱国有林2098林班外(北海道亀田郡七飯町)

- 2 研修受講者数:12名 [男性:10名 女性:2名]
(道職員10名、森林管理局職員2名)

北海道	10名	森林管理局	2名
-----	-----	-------	----

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目は開講式の後、受講生は自己紹介カードを使って自己紹介を行った。工藤内部講師より「森林・林業の背景・現状に関する基礎知識」についての講義が行われ、嶋瀬外部講師から「木材需給・流通に関する基礎知識」についての講義が行われた。次に、長崎内部講師より、国有林での低コスト施業の事例の紹介があった。その後、各班ごとに机上で施業計画案の作成を行った。
- ・2日目は貸切バスを利用して、七飯町国有林へ移動し、現地演習を行った。研修スタッフよりスケジュール等の説明が行われた後、班ごとに分かれ、前日に作成した施業計画案修正のため、現地確認を行った。次に北斗市の谷口精光園へ移動し、コンテナ苗の生産現場の見学を行った。見学後は会場へ戻り、最終案に向けての検討を行った。
- ・3日目は各班ごとに発表・質疑応答を行った。発表後、嶋瀬外部講師らによる各班の施業計画案についての講評及び今後の留意点等の補足が行われた。講評を受けて、受講生より最終的な意見等を交換・共有を行い、当研修は閉講した。

○今回の研修の工夫

- ・施業計画案を検討する際、「計画の各項目(伐採・更新・保育)に、森林総合監理士として、どのように応えるか考える」との研修であることを1日目のイントロで説明し、受講生の思考の目合わせを行った。
- ・全天球カメラを受講生に使用させた(使用経験者が少なかったため関心が高かった)。
- ・施業計画案の考え方に唯一の正解は無いものの、複層林への誘導、造林コストの低減、木材需給・流通についても、施業案作成の際に考慮するよう導いた。

4 記録写真



嶋瀬外部講師による講義:1日目



グループワークによる施業計画の机上案作成:1日目



現地演習での机上案の確認・修正:2日目



コンテナ苗生産現場の見学:2日目



施業計画の修正と計画概要作成:2日目



検討結果の発表:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	特記事項なし。	○次年度以降も、研修テーマ(演習地)と講義内容が合致するよう検討する。
講義・演習	○予定時間を超えた講義があり、内容を含め検討が必要(少し詰め込みすぎた感あり)。	①講義内容については、外部講師との兼ね合いについても考慮する。 ②演習においては、「補助金」を考えずに検討することへの戸惑いの声が毎年度聞かれるため、次年度以降も、「森林総合監理士」の視点での研修であることを講義の中に盛り込む。
現地実習	○特になし(実習地と見学地への移動時間も程よく、実習に当てる時間を十分に取ることが出来た)。	○次年度以降も、移動時間を極力短縮し、現地確認や検討時間を確保する。また、トイレ休憩時間(場所)の検討を忘れないようにする。
その他	特記事項なし。	○次年度以降も、受講生への負担を減らす工夫(会場の設定や、交通機関、駐車場、現場用品の準備、宿泊場所など)をしていく。

(3)アンケート結果

回収率: 12名/12名 (100%)

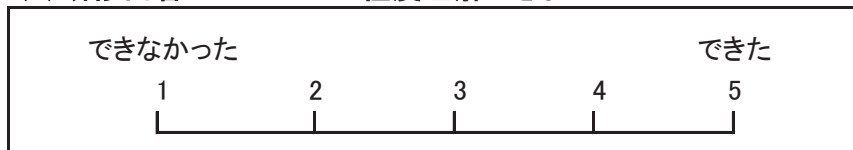
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (7名)
- 2 : 資格なし (5名)

II 本研修に対する理解度、活用度

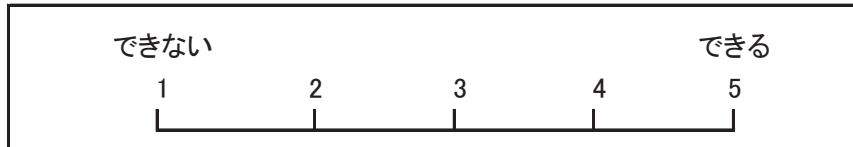
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名)
- 4 (7名) 理解が足りない部分は資料で再確認したい／一部難しい部分もあったが理解できた
- 5 (3名) 分かりにくい点は少なかった／かなり興味を引いて聞くことができた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 3.8

- 1 (0名)
- 2 (1名) 研修の前提条件が実態と異なる
- 3 (4名) 全天球カメラを使った林況調査／考え方の補強ができた
- 4 (4名) コンテナ苗、林産の情報などに活用／森林所有者への提案に活用できる
- 5 (3名) 森林総合監理士に求められていること、心構えを再考する良いきっかけとなった

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

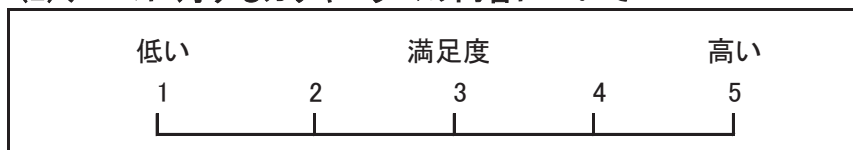
(1)テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 森林総合監理士の業務よりプランナーに近いと感じた
- 3 (2 名) 高齢級林分への対応は地域でも求められている
- 4 (8 名) 高齢級人工林は全道的に問題となっている／伐採と更新方法は最重要テーマ
- 5 (1 名)

(2)テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 3.7

- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 国有林の事例を現地で見たかった
- 3 (2 名) 時間が少ない分、密度が濃く充実感があった
- 4 (6 名) 木材需要の知識が少なく講義はとても参考になった／実践すべき内容だった
- 5 (2 名) 一つの森林に対しても色々な見方があることを学んだ

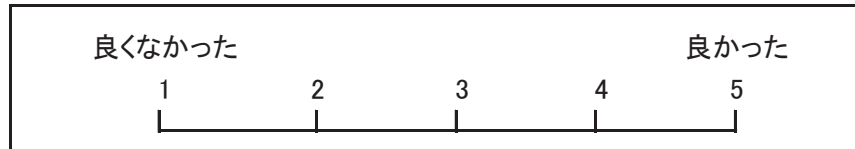
(3)カリキュラムの時間について



平均: 2.6

- 1 (1 名) 時間が少なく、現地も見きれないところがあった
- 2 (6 名) 木材流通の講義、グループ討議の時間が短い／質問時間が少なかった
- 3 (3 名) 時間が少ない部分もあったが3日間という内容ではちょうど良いと思う
- 4 (1 名) 適正だったと思う
- 5 (1 名)

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 色々気遣いを感じたが、後から補足することが多かった
- 3 (3 名) 進行役の方が丁寧で良かった
- 4 (4 名) 状況に応じた対応をしてもらうなどスムーズな流れで進行されていた
- 5 (3 名) 時間がない中でも進行がスムーズだった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・各地で様々な経験を持っている方とお話する良い機会となった
- ・森林環境贈与税を導入すべき森林について今回の研修を通して見えてきたような気がした
- ・川中、川下のことを考え、川上をデザインする必要があると感じた
- ・森林総合監理士としての視点等について改めて認識したことが多くあった
- ・盛土地拵も見学したい。ドローンを活用した内容を加えてほしい
- ・全天球カメラの有効性は本研修の本題ではないので、3日目発表終了後、講評前に時間調整的に行って良いのではないかな
- ・国有林、道有林、民有林と3者の受講生でやってみてはどうか
- ・1泊2日で良いのでカリキュラムをしばって時間をかけてやったほうが良いのではないかな(現地調査、立木評価、プレゼン)
- ・事前に地域の現状を把握するよう通知されていたが、研修内で触れられなかった
- ・コストの話をするのであれば標準単価や簡単に積算できるようにするべき。そうではなくて、低コスト施業の事例を勉強するだけなのか。研修を始める際に目的(着地点)が説明されているがよく分からなかった
- ・遠方から参加する以上、フルに時間を使ってほしい
- ・全道での研修も大事かと思うが各地区での研修会を開催してほしい
- ・研修の実施時期は北海道庁の出席者側は厳しい時期(造林検査)だったので配慮してもらえるとありがたい

2. 東北ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(東北ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年9月2日(水)～9月4日(金)
研修会場 アイーナ いわて県民情報交流センター 会議室501(岩手県盛岡市)
現地実習 雫石町御明神荒沢山国有林735は1林小班外(岩手県岩手郡雫石町)

- 2 研修受講者数:13名 [男性:11名 女性:2名]
(県職員7名、市職員1名、森林管理局職員1名、民間事業者4名)

青森県	2名	岩手県	3名	宮城県	1名	福島県	1名
盛岡市	1名	森林管理局	1名	民間事業者	4名		
欠席者数		1名					

3 研修実施概要

○2日目の現地踏査で天候を考慮した時間配分の調整を行ったが、予定どおりにカリキュラムを修了した。

○研修運営状況、受講生の様子

・1日目は、開講式で東北森林管理局東海林課長が挨拶を行った後、講義に先立ち中嶋企画官から研修主旨等の説明があった。岩手大学斎藤講師の講義では、近年の情報化技術を用いた路線配置計画について行われ、現地実習での森林作業道の配置図の作成を班ごとに検討・作成した。

・2日目は、実習地へ移動し、斎藤講師によるスマートフォン等を活用した現地踏査方法等の説明、操作確認を行った後に、各班で予定線形ルートを踏査した。

・3日目は、現地での踏査結果をもとにして森林作業道の配置図を作成し、所有者への説明を想定した発表を班ごとに行った。終了後、斎藤講師による講評・補足説明が行われ講義が終了した。その後、アンケートと振り返りシートの記入を行い、閉講式では、林野庁高麗課長補佐、東北森林管理局東海林課長から挨拶があり、記念撮影後、研修の全日程を終了した。

・全体としては、ほぼ時間通りに進行され、参加者間の積極的な質疑のある活発な研修であった。

・新型コロナウイルス感染症予防対策については、事前の検温シートへの協力のほか、注意事項による説明、会場内の各除菌対応等を行った。

○今回の研修の工夫点

・事前に当日の進行や利用施設についての確認と現地確認を行った。

・新型コロナウイルス感染症予防対策として、事前に掲示物や備品等の確認を行い備えた。

4 記録写真



講義「森林作業道配置計画の基礎知識」:1日目



現地に関わる資料や着眼点等の説明:2日目



演習「森林作業道配置図の作成等」:2日目



現地実習「森林作業道配置の現地検討～情報化技術を用いた現地踏査～」:2日目



森林作業道配置計画の発表:3日目



集合写真:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修 キテ キュ ラマ ム・カ	①本研修を受講したうえで、自分の守備範囲をどうしていくかということを明確にさせたい。 ②林野庁担当者から、挨拶を開会式で行いたい(研修の目的を事前に説明したい)との要望があった。	①日々の業務に関連付けるなど、もっと興味を持たせられるように研修内容等を工夫していく必要がある。 ②研修スケジュールの見直しを検討する。
講義・ 演習	①受講生から、GISの操作時間がもっと欲しかったとの声があった。 ②班の作業パソコンを操作者一人が独占する状態になってしまう。	①日程の問題で、QGISの説明にはあまり時間が取れないため、受講生募集の段階で、ある程度QGISの知識があることを前提にした方が望ましい。 ②モニターを用意等、班全体でパソコン画面を見られるように工夫する必要がある。
現地 実習	①受講生から、現地実習の時間がもっと欲しかったとの声があった。 ②計画通りにすべて踏査できなかった班がみられた。	①今回は悪天候の影響もあり、現地実習の時間を1時間ほど早く切り上げたが、2泊3日の日程では、今回の予定時間以上は確保しにくい。 ②無理にすべて踏査する必要はないが、時間配分等も計画時点で考慮する必要がある。
その他	○コロナ対策について、グループワークでの距離が近くなってしまうことなど、対策が難しい点があった。	○グループワークの距離等は仕方ない部分ではあるので、マスクやフェイスシールドの着用の徹底や、こまめな消毒の徹底を引き続き呼び掛けることで対応を考える。

(3)アンケート結果

回収率:13名/13名(100%)

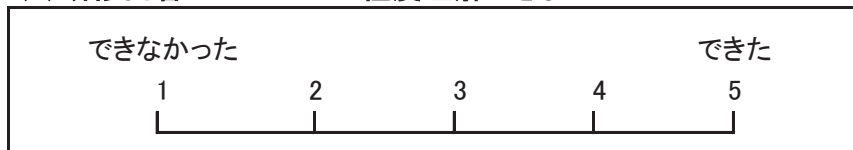
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (5名)
- 2 : 資格なし (8名)

II 本研修に対する理解度、活用度

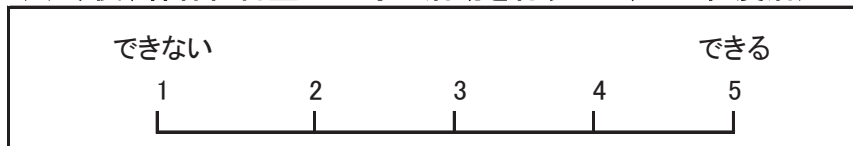
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 3.9

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) ある程度理解したが、繰り返し勉強してさらに理解を深めたい
- 4 (10名) 道の考え方や便利なツールの紹介があり有意義だった／新しい技術が勉強できた
- 5 (1名) 作業量作設の考え方が理解できた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

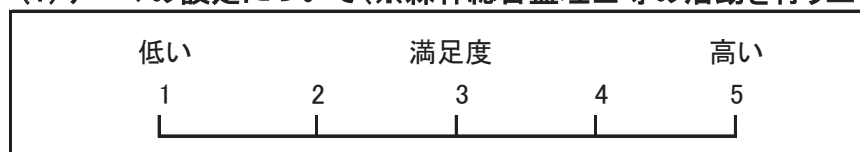


平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 市町村や森林組合への説明に利用したい
- 4 (9名) 路網計画の審査・指導に活用できる／省力化につながる技術で広く普及したい
- 5 (2名) GISを活用すれば通常業務の幅が広がると感じた

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

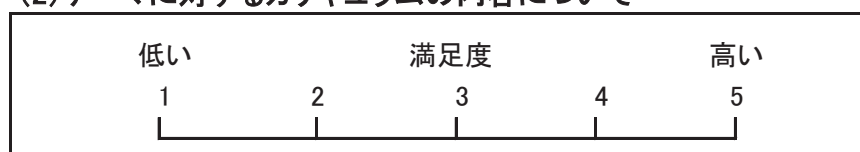
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 災害発生リスクや収益を考慮する必要性を考えさせられたよい研修だった
- 4 (9 名) 現場で求められるタイムリーなテーマ/データとデバイスの併用は説得力がある
- 5 (2 名) 路網のことを学びたかったのでありがたい/地形の見方への理解が深まった

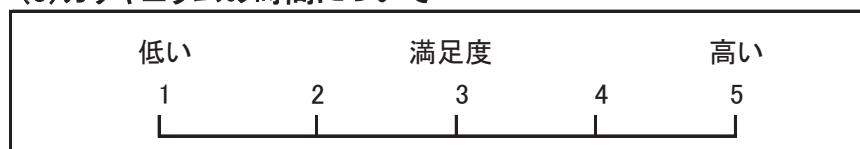
(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 現地の時間をもっと増やしたらさらによい
- 4 (9 名) これまで活用したことのないソフトについてとても勉強になった
- 5 (3 名)

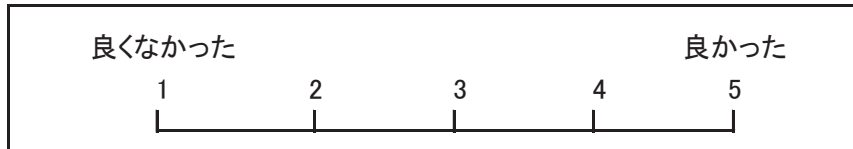
(3) カリキュラムの時間について



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 現地の時間がもう少しあるとよい
- 4 (9 名) ちょうどよい/もう1日あるとQGISに関する内容が充実すると思った
- 5 (1 名)

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 適切だった
- 4 (4 名) スムーズな進行・運営だった
- 5 (7 名) 大変良かった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 開設場所の検討の大切さを学んだ。災害の起きにくい、使いやすい作業道の開設に役立てたい
- ・ 地山の可視化のデータが路線選定に非常に有効なツールだと感じた
- ・ 林業業務経験と知識が浅く不安だったが、非常に理解しやすく吸収しやすい内容であり楽しく受講できた
- ・ とても興味深く学ばせていただいた。Avenza Mapsなどは、関係職員へ広く情報提供し、普及するべきだと感じた
- ・ GIS活用前提であれば、ある程度GISの話と合わせてやった方が更に実務的な研修になると思う
- ・ QGISやAvenza Maps等を利用した森林調査をメインにした研修を検討してほしい
- ・ ドローンを活用した技術研修を希望したい
- ・ 航空レーザーの有効性は認識していたので、広く一般（市町村等）にも知られるよう、研修を続けてほしい
- ・ 森林総合監理士の活躍の実務的な展開・方法の具体化が必要ではないかと感じた（林政アドバイザー業務など）

3. 関東ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(関東ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年10月14日(水)～10月16日(金)
研修会場 利根沼田文化会館(群馬県沼田市)
現地実習 利根郡昭和村赤城山第2国有林159い4林小班外(群馬県利根郡)

- 2 研修受講者数:9名 [男性:9名]
(県職員3名、森林管理局職員1名、民間事業者5名)

埼玉県	1名	神奈川県	1名	山梨県	1名	森林管理局	1名	民間事業者	5名
途中欠席者数 0名									

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、開講式・オリエンテーションの後、岡講師による「シカの生態と被害の現状」、並びに飯島講師より「捕獲と密度管理」・「防除対策事例とコスト」の講義が行われた。

・2日目は、貸切りバスで赤城山第2国有林へ移動し竹之内局講師より現地演習を行った。また、当日捕獲したシカの個体観察やとめさし器具の使用方法などの説明を行った。その後、3班に分かれ対象林分を踏査し「シカ被害対策全体構想」の検討を行った。午後は研修室へ戻り、飯島講師よりプレゼン資料作成に関する林分状況の解説・補足及び計画シミュレーション(各班にPC1台用意、Excel作成)についての説明が行われた。その後、現地演習の踏査結果を基に、班毎に現況とシカ捕獲、防除対策、モニタリングの実施の有無や方法を検討し、発表資料の作成を行った。

・3日目は、前日に作成した「ニホンジカ被害対策全体構想」について班毎に発表とディスカッションを行った。最後には、各外部講師より講評があり、主伐再造林を実施するにあたり、シカ被害対策への知識・技術等の習得と科学的知見に基づき各関係機関と連携し効率的な森林管理を行っていく事が重要であると述べられた。

・全体としては、現地演習やグループワークで班内受講生同士のコミュニケーションが良く取れスムーズに研修を進めることができ、講義・演習共に質問等が活発に行われた。

○今回の研修の工夫点

・現地演習地図等を模造紙サイズに拡大印刷し、講義及び現地演習で受講生に理解しやすいよう掲示した。

・現地での演習時間を長く確保するため演習地での昼食とした。

4 記録写真



岡講師による「被害対策全体構想」に関する講義:1日目



現地実習(シカ被害の調査方法と行動特性観察):2日目



現地実習(シカ捕獲個体の観察及びとめさし方法説明):2日目



踏査結果による計画シミュレーション作成の様子:2日目



発表準備のグループワークの様子:2日目



現況の判断とシカ捕獲、防除対策、モニタリングの実施方法の検討についての発表風景:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	<p>①3日間(実質2日)の研修では短いと言う意見があった。</p> <p>②研修時間の効率を考慮し、事前学習実施の可否について意見があった。</p>	<p>①3日目の終了時間延長等も検討する。</p> <p>②事前学習の実施について検討する。</p>
講義・演習	<p>①2日目演習時の計画シミュレーション作成に時間がかかり過ぎた。</p> <p>②意見や質問が多く休憩時間を省略した場面があった。</p>	<p>①計画シミュレーションの簡素化を検討する。</p> <p>②質問時間等の時間配分を検討する。</p>
現地実習	特記事項なし。	特記事項なし。
その他	<p>○研修全体のふりかえり(最終日のふりかえりシート)はあったが、3日目の研修のふりかえりシートがないため、各班の発表などに関する意見や感想がないという意見があった。</p>	<p>○3日目のみの「ふりかえりシート」を検討する。</p>

(3)アンケート結果

回収率:9名/9名(100%)

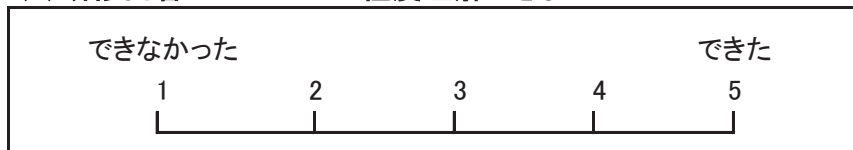
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (2名)
- 2 : 資格なし (7名)

II 本研修に対する理解度、活用度

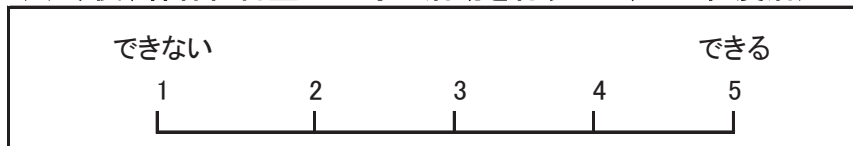
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.4

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (0名)
- 4 (5名) シカ対策の重要性がよく分かった/生態、対策、試験など多くを学べた
- 5 (4名) 講師陣の話は分かりやすく質問に対する回答も明確だった

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名)
- 4 (4名) 森林総合監理士として知識の補強ができた/今後の森林組合指導等に役立てたい
- 5 (3名) 各種事業へ活用できると思う

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

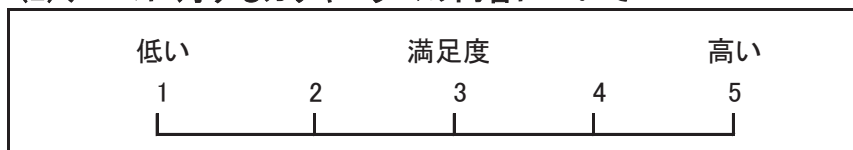
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.7

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (3 名) シカの問題は適切だった/説明の仕方が分かりやすく簡潔だった
- 5 (6 名) 近年の重要な課題である/これからの林業には必要な知識

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (5 名) 実践的な内容でよかった/順序よくまとめられていた
- 5 (4 名) 分かりやすく様々な箇所での応用が効きそう

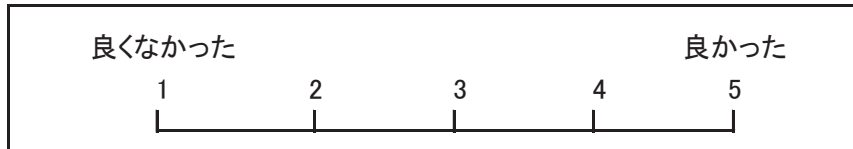
(3) カリキュラムの時間について



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 適切だった
- 4 (3 名) 内容が充実し時間配分も負担が少なく良かった
- 5 (4 名) ちょうどよい

(4) 研修の進行・運営の流れについて



1 (0 名)

2 (0 名)

3 (1 名)

4 (3 名) カリキュラムに記載された内容が全てできたので良かった

5 (5 名) スムーズで特に問題ないと思われる／グループ討議が活発にできた

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 大変楽しく有意義な研修だった
- ・ 電動一輪車は色々なことに役立ちそう
- ・ シカの獣害被害の決定的対策、シカの生態系を詳しく説明してほしい
- ・ 重要な問題は常に出てくるので、今後も色々な情報を提供してもらいたい
- ・ 各者（国、県、民、団体）の現状や動向について事前に知ることができたらよかった
- ・ あらかじめ研修資料を送付していただければなおよかった

4. 中部ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(中部ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年9月16日(水)～9月18日(金)
研修会場 中津川市にぎわいプラザ(岐阜県中津川市)
現地実習 湯舟沢国有林2206い林小班外(岐阜県中津川市)

- 2 研修受講者数:12名 [男性:10名 女性:2名]
(県職員10名、森林管理局職員1名、民間事業体1名)

福島県	1名	静岡県	2名	岐阜県	3名	愛知県	1名	滋賀県	1名
和歌山県	1名	奈良県	1名	森林管理局	1名	民間事業体	1名		

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目は欠席・遅刻なく集合し、川戸英騎森林整備部長の挨拶の後、伐採・造林一貫作業システム、採材・仕分けの講義や伐採計画の演習などを行った。
- ・2日目は、現地到着時に小雨が降っていたが、その後は降雨もなくスムーズに現地研修が進められた。伐採・造林一貫作業システム計画箇所の現地検討後、木曽官材市売協同組合において採材・仕分け流通について講義と土場の視察を行い、研修会場に戻り発表準備をまとめた。今年も3日間を通して班ごとに専属の講師がついたことから、細やかな指導を受けることができた。
- ・3日目は、各班の発表に対し活発な意見交換や質問等が行われた。発表後の講師陣からのフィードバックも行われ、短時間ながら充実した内容となった。
- ・全体としては、研修時間が短い中でも内容の濃い研修が行われた。受講生は、健康状態等問題なく全員が最後まで受講することができた。コロナ禍の中だったが、ソーシャルディスタンスを保ちながら、受講生同士の交流やコミュニケーションが積極的に取れていた。

○今回の研修の工夫点

- ・コロナ禍のために研修会場の貸し出し許可がおりず、2箇所会場を仮予約した。最終的には会議室の変更はあったものの、第1希望の研修会場を借りることができた。
- ・会場及び移動時において、コロナ感染防止及びCSF(豚熱)対策の実施と、参加者への注意喚起を行った。また、フェイスシールドも配布し、机上演習等でも対策を行った。

4 記録写真



開講式: 1日目



演習の様子: 1日目



現地検討、伐採・造材の一貫作業: 2日目



現地検討・市場視察: 2日目



発表の様子: 3日目



集合写真: 3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修 キ テ レ ラ マ ム ・ カ リ	○パソコンが各班1台のため、情報共有が難しい	○予算の関係もあるが、モニターの設置や印刷物の配布などが考えられる
講 義 ・ 演 習	①ドローンを使ったデータがあると理解しやすかった ②架線集材を実際に見た人が少なかった ③伐造一貫作業を実施している業者の話を知るとよかった	①編集等作業に時間がかかるが検討する ②映像があれば準備したい ③研修時期に施業している業者がいれば依頼していきたい
現 地 実 習	特記事項なし。	特記事項なし。
そ の 他	○空調機器の音が大きく気になった	○コロナ感染・対策の状況によっては昨年度までの部屋の使用を検討したい

(3)アンケート結果

回収率:12名/12名(100%)

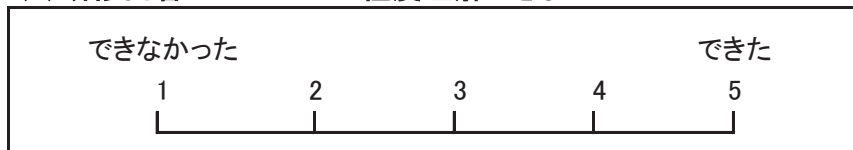
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (6名)
- 2 : 資格なし (6名)

II 本研修に対する理解度、活用度

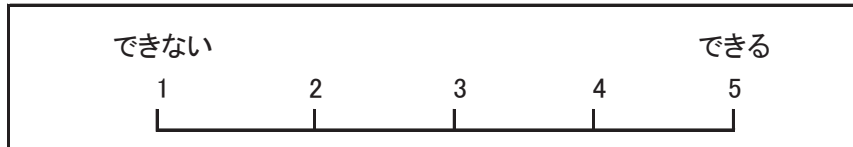
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 3.8

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (3名) 架線集材について何の知識もなかったが、講師の方がていねいに教えてくれた
- 4 (8名) 主伐・再生林の基本を理解することができた／架線計画の立て方なども理解できた
- 5 (1名) 時間配分が良く落ち着いて学べた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (1名)
- 3 (2名) 索道による集材の知識がなく、事業体との施業方法検討の引き出しが増えた
- 4 (4名) 平均勾配の算出方法は現場で活用できる／どのような情報が必要かイメージできた
- 5 (5名) 架線現場の設計指導・巡回指導に活用できる／架線系を選択肢にできる

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

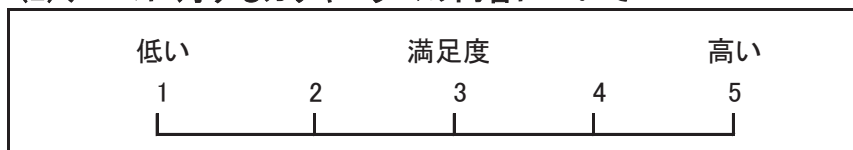
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 架線システムの一環施業をもう少し掘り下げてほしい
- 4 (7 名) 馴染みのない架線集材を体験できて良かった／造林経費の削減面からも良かった
- 5 (3 名) 販路まで見据えた一環施業は地元でも要望が多く非常にありがたかった

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (6 名) 設計はとても勉強になった／一貫施業に取り組んでいる事業体の話が聞きたかった
- 4 (3 名) 講義→演習→実習→発表の形式が良かった／架線の基本を習得後、演習したかった
- 5 (3 名) 短い日数での厳選された内容だった

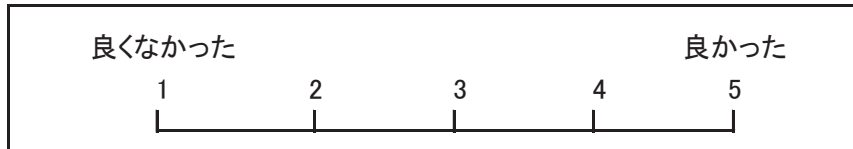
(3) カリキュラムの時間について



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 検討内容が多く、3日間では理解しきれない部分もあった
- 3 (3 名) 現場での作業手順を写真・動画で紹介する時間を中心に配分してほしい
- 4 (6 名) 少し短い気がするが参加しやすく集中できた／発表準備の時間をもう少し長く
- 5 (2 名) 現地検討の時間が十分とられていたのが良かった

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) とても良かった
- 4 (5 名) 各班に講師の方が専任でついていただいたのがとても良かった
- 5 (6 名) コロナ対策を取りながらもスムーズに受講することができた

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 2日目の現地検討は今後の役に立ちそうで、非常に良かった
- ・ 講師から架線集材、販売について、きめ細かなアドバイスをいただいた
- ・ 1班に1人講師がつき、質問しやすかった
- ・ 発表、意見交換は様々な意見が出て良かった
- ・ 今後もこのような研修に定期的に参加したい
- ・ 様々な点でコロナ感染防止対策に配慮いただいた
- ・ 受講生同士で意見交換する時間をもっと設けてほしかった
- ・ コスト計算をカリキュラムに加えてほしかった
- ・ 計画と実行で変わった点、工夫した点が良い計画を立てるためのノウハウになるため、既施業地についての計画内容と実行者(受注者)の感想・意見をまとめた方が良いと思う
- ・ ドローンによる苗木運搬などが実用化できそうなので、研修で取り上げてほしい
- ・ 集材方式や用語(器械の名称)などの資料があるとありがたかった

5. 近畿中国ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(近畿中国ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年9月8日(火)～9月10日(木)
研修会場 岡山県新見市高尾 新見商工会館 会議室(岡山県新見市)
現地実習 古谷国有林527林班(岡山県新見市大佐上刑部)

- 2 研修受講者数:9名 [男性:8名 女性:1名]
(府県職員5名、森林管理局職員2名、民間事業者2名)

京都府	1名	兵庫県	2名	岡山県	2名	森林管理局	2名	民間事業者	2名
途中欠席者数 0名									

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目、林野庁中村対策官の挨拶の後、オリエンテーション、ガイダンスを経て、森林管理局講師による「今後の森づくりの考え方について」、外部講師による「多様な森林づくりの構想について」の講義が行われた。「現地検討の進め方及び発表の取りまとめ方」の説明の中では、明日の現地検討地について、ドローンによる映像を使い説明を行った。その後、各班で机上での調査、検討を行い、1日目の研修を終えた。

・2日目、古谷国有林へバスで移動し、現地の概況説明の後、最初の1時間は全員で踏査し、後半は各班に分かれて各々の調査ポイントを調査した。昼食後、「天然力を活用した森林づくりの踏査」を行い、質疑応答の後、帰路についた。研修会場では、各班持ち帰った情報を共有、とりまとめをし、明日の発表の準備を行った。

・3日目、日程説明の後、各班で発表の準備を行った。発表は一班から発表し、質疑応答が活発に行われた。最後に講師陣による講評の後、閉講式が行われ、研修の全日程が終了した。

・全体としては、スムーズな進行となった。新型コロナウイルス感染症の影響で参加者が少なかったが、全員が作業に参加し活発に意見を述べるなど、充実した研修となった。

○今回の研修の工夫点

- ・現地踏査の際、最初に全員で歩き現場の状況、概況を共有・把握することができた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、体温計を設置し、会場入室時に検温、記録した。また、各テーブルに消毒液、除菌ウェットシートを置き、研修終了時には机や椅子などの除菌を行った。

4 記録写真



ドローン撮影映像による説明:1日目



外部講師による講義:1日目



現地検討 概況説明:2日目



現地検討を踏まえたグループ討議:2日目



発表・意見交換 1班発表:3日目



発表・意見交換 2班発表:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	<p>①発表がKP法で行う必要はあるか。パワーポイントに慣れている人の方が多いので、そちらでもよいのではないか。</p> <p>②山林所有者への説明を想定した発表ならば、所有者が一番知りたい情報はいくら収入が得られるかということになる。そのことについての材料が少ない。</p> <p>③広葉樹についての情報が少ない。</p>	<p>①パワーポイントの場合も検討する。</p> <p>②材価表などの資料を提示する。</p> <p>③広葉樹に関する資料を提示する。</p>
講義・演習	<p>○新型コロナウイルス対策で、受講生の間隔を全て2メートル開けて机の島を大きくしたことで、5人班の場合、一人が離れる形となり話に参加しにくくなった。</p>	<p>○班付講師による誘導で解消された。</p>
現地実習	<p>①天然力を活用した森づくりの説明箇所、ヤードが狭く、一班ごとの説明となり、班それぞれでの質問を共有できなかった。</p> <p>②踏査の際、今どこにいるか分からない受講生がいたのではないかと。もう少し分かり易くした方がよい。</p> <p>③踏査箇所の成長データなど、資料を配布したほうが良い。</p>	<p>①全ての班がそろった時点で質疑応答を行い、共有できるようにする。</p> <p>②持って歩く図面にポイントを落とし、現地でも場所が分かるようテープなどで印を付ける。班ごとにモバイルマップを携帯させる。</p> <p>③27年までの成長データを提供する。</p>
その他	<p>○研修資料に通し番号を記載してほしい。</p>	<p>○全ての講義資料に通し番号を入れるには、資料の作成者が異なることで印刷のタイミングがずれることや、印刷時間に余裕がない場合は、難しい。図面にも資料番号を入れることで、参照箇所・頁を指定しやすくなるよう徹底する。</p>

(3)アンケート結果

回収率:9名/9名(100%)

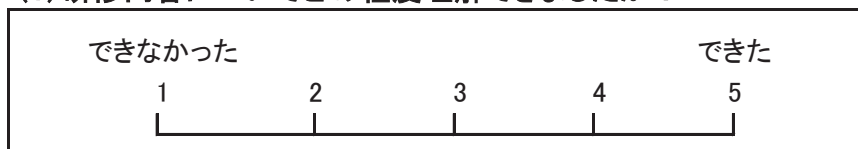
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (2名)
- 2 : 資格なし (7名)

II 本研修に対する理解度、活用度

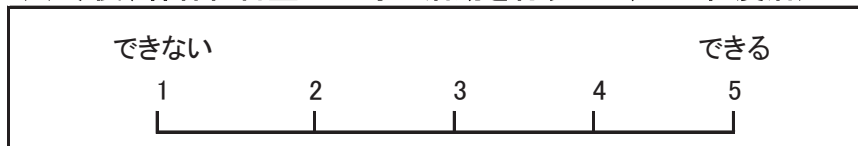
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.0

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名)
- 4 (7名) 現地で実際に実物を見て説明を受けることができる等理解が進みやすかった
- 5 (1名) どの講義も大変分かりやすく勉強になった

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 4.0

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 直接すぐの活用はないが、今後はあると思う
- 4 (6名) 新たな森林管理システムの候補地等検討を行う際に活用していける
- 5 (1名) 学んだことをより深めて、現場に生かしていきたい

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

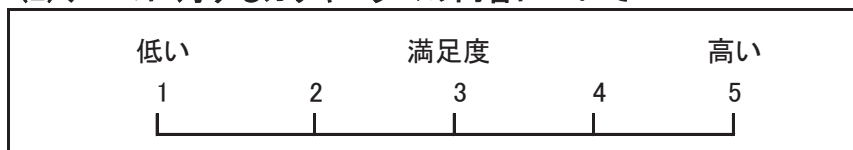
(1)テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (5 名) 表題だけではイメージがしづらかったが、活動に活用できる内容だった
- 5 (4 名) 地位の違いがよく分かる現場で、地位の違いを実感できた

(2)テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (4 名) 木材の販売価格を検討し所有者への収入の提案ができれば良かった
- 5 (4 名) 山づくりの今後を考える上で非常に参考になった

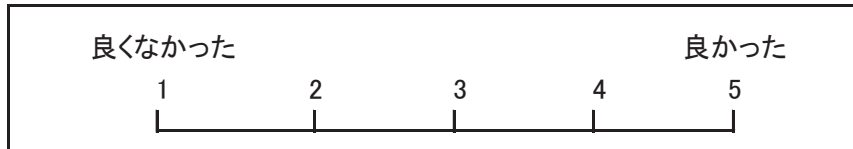
(3)カリキュラムの時間について



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名)
- 4 (4 名) 一歩進めた提案をする場合は、時間が不足するかもしれない
- 5 (3 名) 短い時間の中でも濃い内容だった／ちょうど良かった

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均: 4.9

1 (0 名)

2 (0 名)

3 (0 名)

4 (1 名)

5 (8 名) 説明が丁寧／間延びせず、メリハリのあるスムーズな進行が参考となった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 広葉樹林化について様々なお話を聞くことができ、とても勉強になった
- ・ 様々な立場の人からの話や話し合いの場を通して大変刺激となった
- ・ 森づくりについて科学的に検討でき、今後の業務に生かせる知識や情報を多く学べたので、参加して良かった
- ・ 森林総合監理士の資格を有していないため、来年は受験しようと思う
- ・ 広葉樹の需要先等の話が聞けると良い
- ・ 市町村の林務担当との意見交換があると良い。研修にも参加してもらいたい
- ・ 新型コロナウイルスの影響で、意見交換の場が持てないことが残念だった

6. 四国ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(四国ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年11月11日(水)～11月13日(金)
研修会場 四国森林管理局会議室(高知県高知市)
現地実習 島ノ川山国有林3229林班外(高知県中土佐町)

- 2 研修受講者数:16名 [男性:16名]
(県職員4名、町職員1名、森林管理局職員4名、民間事業者7名)

奈良県	1名	愛媛県	1名	福岡県	1名	大分県	1名	上勝町	1名
森林管理局	4名	民間事業者	7名						

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は開講式後、砂田講師((株)サイプラススナダヤ)から動画によるCLTを中心とした製品需給状況の説明があった。その後、局駐車場内に設けたエンドレスタイラー式集材模型による研修とGISによる架線設計等についての講義が行われ、それらを基に各班が搬出系統図作成の演習準備を始めた。

・2日目は採材研修及び搬出系統等の資料作成に向け、実際に間伐施業を行っている島ノ川山国有林で現地実習を行った。採材研修は、経験豊富な受講生が多かったことから、急遽、各班2本づつの採材検討に変更した。現地実習終了後、会場に戻り、搬出系統等の資料作成作業を行った。

・3日目は前日の現地実習を踏まえ、班ごとに集材架線システム等の関連資料を作成後、発表・質疑応答と続き、全てのカリキュラムを終了した。

・全体としては、過年度と同じ2泊3日の日程の中で、前年の実績と改善を基にしたカリキュラムとすることで、実務への寄与度がより大きくなった内容であった。

○今回の研修の工夫点

・昨年、受講生の関心が高かった砂田講師の講義時間を30分延長し、活発な質疑応答が行われたことで、広範なCLT情報等が提供できた。

・各班の発表方法をKP法からパワーポイントでの発表に変更され、より技術水準の維持・向上につながった。

4 記録写真



砂田講師のCLT等川下状況説明:1日目



エンドレスタイラー集材模型による研修:
1日目



生産現場における採材研修:2日目



ダブルエンドレス方式集材架線の先柱での説明:2日目



現地確認を経て集材架線システム作設演習:3日目



各班作成の集材架線システム発表状況:
3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修 キ ュ ー ラ マ ム ・ カ リ	特記事項なし。	特記事項なし。
講義 ・ 演習	○各班の演習パソコンに入れておくべきデータが入っておらず、演習が中断する場面があった。	○限られた時間内で演習がスムーズにできるよう、データ準備に抜けがないようにする。
現地 実 習	○現地実習地が変更になり、現地までの移動時間(往復約4時間)が長いことから、研修日程内でのカリキュラム実施がタイトになった。	○2泊3日の日程が受講生も参加しやすいことから、現地実習地に近い場所で研修を実施することも検討。今年度と同じ会場で次年度も実施する場合は、近傍の貯木場で川下側を関連付けた採材研修を実施する等、研修日程と合致したカリキュラム内容を検討する。
その他	○現場等の経験が豊富な受講生が多く、また、年齢・経験年数等の幅が広がったため、演習説明などで標準をどこに設定するか等、外部講師・内部スタッフ・運営側も対応が難しかった。	○受講生募集の段階において、本研修対象者(経験年数等)を具体的に示すことを検討する。他方、講師レベルの経験豊富な受講生の存在が、他の受講生にとって新たな情報及び経験習得といったメリットもあった。

(3)アンケート結果

回収率: 16名/16名(100%)

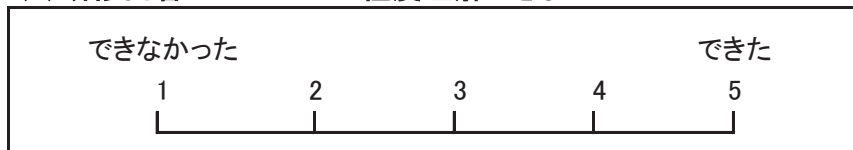
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (3名)
- 2 : 資格なし (13名)

II 本研修に対する理解度、活用度

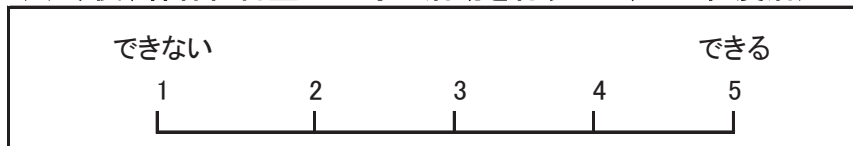
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 3.3

- 1 (0名)
- 2 (2名) 理解はできるが活用としては難しかった
- 3 (8名) 搬出の計画は難しかったがとても勉強になった／設定を明確にしてもらいたい
- 4 (5名) 架線設置計画の概要を理解することができた
- 5 (1名)

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 3.3

- 1 (0名)
- 2 (3名) 森林経営計画の計画立案に一部参考にできる
- 3 (6名) 架線集材が必要な区域において指導ができる／業務内でコストを気にしていきたい
- 4 (5名) 間伐・皆伐を発注、施行する機会に集材手法を考え応用していきたい
- 5 (1名) 大いに役立つ

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

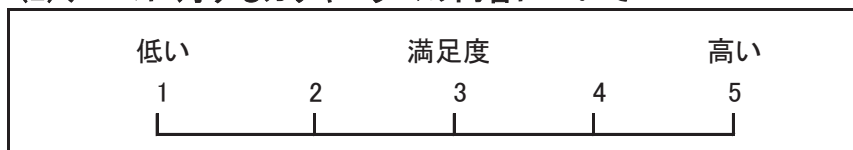
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 3.7

- 1 (0 名)
- 2 (1 名)
- 3 (6 名) 山での作業計画を立てていく中で大切だと思う
- 4 (6 名) 急峻な奥地人工林対策として有効/木材生産の実践を考えるうえで役立つ
- 5 (3 名) 実践できる内容だと思った

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 3.6

- 1 (0 名)
- 2 (1 名)
- 3 (7 名) 実際の現場が見られて良かったが遠かった/現場の時間がもっと取れるとよかった
- 4 (5 名) 現場指導に活用できる内容だった/現場の考え方等を聞くことができ刺激になった
- 5 (3 名) 現場も見ることができて良かったと思う

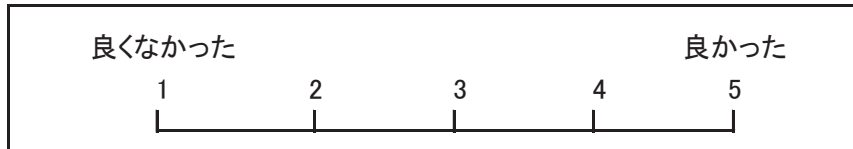
(3) カリキュラムの時間について



平均: 3.6

- 1 (0 名)
- 2 (3 名) 移動時間が長く、研修も詰め込み過ぎている気がした
- 3 (3 名) 現地実習がある場合の移動時間・方法について検討が必要ではないか
- 4 (8 名) 短い期間でも濃密な内容だった/発表に向けた検討時間がもう少しあってもよい
- 5 (2 名) 現地実習も予定されていた時間通りに進んだと思う

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (6 名) 良かった／パソコンへのデータ取り込み等は先にしてほしかった
- 4 (3 名) 1日目はついていけなかったが2日目からは実際の演習ができて良かった
- 5 (7 名) スムーズに行われていた／フォローも細かくしていただけて良かった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 行政、民間の合同開催は非常に刺激になった
- ・ 生の意見が聞けて大変良かった
- ・ 現地実習において講師等の生の声を聞くことができ、現状をふまえて大変参考になった
- ・ 若干、専門的すぎる内容もあったと思うが実践的な研修になったと思う
- ・ 同じ班の人に様々なことを教えてもらいありがたかった。実際に仕事をしている人の考え方や言葉には力がある。他の班の人と交流できなかったのが残念だった
- ・ 班内のパソコンをもう少し多くしてはどうか
- ・ 現地実習地までが少し遠いと思った